中学生が職場体験

〈香川所〉

昨年の十一月十一日から一三日の三日間、高松市立紫雲中学校の生徒二名が当所で職場体験学習を行いました。

一日目は屋島国有林の治山現場で治山事業や保安林について学んだ後、下草刈り、枝打ち、保育間伐を体験しました。

二日目は、柞多尾国有林で行われている保育間伐（活用型）の現場で、プロセッサーなどの高性能林業機械を使って行われている間伐作業を見学しました。

三日目は、森林環境学習のひとつとして香川所が行っている「つるかご編み」を体験しました。

日頃、森林や林業について、学んだり、目にしたりすることの少ない生徒たちからは、「森林の中は気持ちがいい」「傾斜地で鋸や鎌を使っての作業は大変」などの感想が聞かれました。

三日間の体験学習をとおして、生徒たちには、林業の大変さ、森林を守ることの大切さなどを理解してもらえたと考えています。

間伐体験の様子

遊々の森で遊ぶ

〈香川所〉

昨年の十一月二十六日、高松市立屋島東小学校の三・四年生六十四名が、「遊々の森・ドキドキわくわくコース」で森林体験学習を行いました。

四年生は五月に続いて二度目、三年生は初めて同コースを訪れました。

当日は、ターザンロープやハンモックを使っての遊びや枝葉を使って秘密基地を造りました。

生徒たちは、出来上がった秘密基地の中に入り、出来映えに満足していました。

普段、森林の中で遊ぶことの少ない生徒たちは、時間が経つのも忘れて遊び、名残惜しそうに同コースを後にしました。

秘密基地で遊ぶ生徒

森林・林業セミナーで講演

〈ふれあいセンター〉

昨年の十一月十五日、鬼北町の成川渓谷休養センター（奈良国有林内）で、南予流域活性化センターによる「第二回南予アルプスの魅力を語る会」が開催され、「南予アルプス友の会」の会員ら約二十名が参加しました。

森林・林業セミナーでは、ふれあいセンターの秋山所長が、「滑床山国有林 シカ食害地の植生回復」と題してこれまでの取組を説明しました。

参加者は、リョウブなどの食害写真を目の当たりにして、あらためてニホンジカの被害に驚いた様子で、熱心に聴講していました。この講演を契機に、今後滑床山に登った時には、ふれあいセンターの取組に関心を持っていただけるのではないかと期待しています。

熱心に聴講する参加者

「滑床山植生回復検討会」の実施

〈ふれあいセンター〉

昨年の十一月十九日、関係機関、有識者等の出席を得て、「第四回滑床山植生回復検討会」を開催しました。

今回の検討会は、平成十九年三月にボランティアの協力を得てミヤコザサの移植を行った箇所の生育状況等を現地で見ていただき、併せて今後の取組について意見・提言を聴くために開催しました。

当日は、十一月中旬としては思いもかけない雪となり、約二時間かけて歩き、山頂近くの通称「たるみ」でミヤコザサの生育状況を確認しました。試験地では森林総合研究所四国支所の奥村主任研究員から滑床山周辺のニホンジカ被害の実態やこれまでの調査結果等の説明がありました。

参加者からは、「ササが活着していない箇所には再度移植をしてみては」「被害を受けている箇所が近隣にも見受けられる」「防護ネット内にもアセビが多いが、アセビはこのままでも良いか」など多くの意見が出されました。

今後の取組としては、継続してモニタリングを行うと共に、提言された内容について、有識者の意見等も聴きながら検討をしていくという方向性を示し閉会しました。

雪の中での検討会

西熊山のモミをニホンジカから守る

〈高知中部署〉

昨年の十二月七日、「特定非営利活動法人　我が家を見直す会」のボランティア十八名が、ニホンジカの食害から西熊山の歩道沿いにあるモミを守るために、木の幹に防護ネットを巻き付ける作業を行いました。

当日は、前日に降った雪のため、当初予定していた間伐作業を取り止め、ネット巻きのみを行いました。約六十本のモミの木にネットを巻いた後、「森の巨人たち百選」に選ばれているイヌザクラがあるさおりが原の天然林の中を散策して、街の中では味わえない自然の豊かさを満喫しました。

参加者は、これまでの体験から「間伐を行うことによりすごい達成感が味わえる」と間伐を楽しみにしていましたが、それがかなわず残念そうでした。

しかし、ニホンジカ食害対策の作業を行ったことと、この時期にはめずらしい三嶺の雪景色を楽しむこともでき、「来て良かった」と誰もが満足顔でした。

ネット巻きの様子

ヘリコプターでシカ食害防護柵の資材運搬

〈高知中部署〉

昨年の十一月二十日、三嶺の麓のヒカリ石から、標高千七百m近くある高知県と徳島県の県境稜線部、カヤハゲと韮生越（にろうえ）などにヘリコプターで、シカ食害防護柵の資材を運び上げました。

前夜に降った雪で一面の銀世界の中、ヘリコプターの飛行が心配されましたが、荷下ろし地点の天候は良好で、計画どおり実行されることになりました。

応援していただいたボランティアの方と署の職員は、林道の終点から積雪のある歩道を二時間三十分余り歩いて荷下ろし地点に到着。それぞれが資材降ろし作業の配置につきました。

ヘリコプターによる運搬は、強風がおさまるのを待って予定の時間より遅れて開始しましたが、無事五十分余りでシカ食害防護柵千四百m分の資材を運ぶことができました。

高知中部森林管理署では、これまでにニホンジカによる食害が顕在化している「四国山地緑の回廊」の西熊山周辺において、地元自治体やNPO、ボランティア等と協働でニホンジカの食害防護柵（ネット）等の設置を行ってきました。その結果、防護柵を設置したところでは、希少植物等の植生が回復するなど一定の効果が確認されています。

今回、人力では資材運搬が厳しいこれらの箇所に防護柵を更に増設するため、ヘリコプターによる資材運搬を行い、春の雪解けを待って防護柵の設置を行いますので、多くの方の参加をお待ちしています。

ヘリコプターによる資材運搬の様子

『「祖谷のかずら橋」架け替え資材確保の森づくり』シラクチカズラの植栽始まる

〈徳島署〉

昨年の十一月二十六、二十七日に徳島県三好市東祖谷の栗枝渡国有林（天然林）において、祖谷のかずら橋・架け替え資材確保実行委員会と地元有志、公募のボランティアによりシカの食害防止のネット張りの作業とかずら橋の材料となるシラクチカズラ（サルナシ）の苗木九百十本の植栽を行いました。

祖谷地区には「祖谷のかずら橋」「奥祖谷二重かずら橋」の二カ所に三本の橋があり観光名所として賑わっており、三～五年に一度、かずらの架け替えを行っています。しかし、材料となる「シラクチカズラ」の減少が著しいことから、かずらの育成に国有林の活用を三好市に提案し、昨年三月に協定を締結、三好市の策定した年間活動計画に沿って活動しています。

将来のかずら橋候補の苗木は、冷たい雪が降ってもいいように枯葉でくるむ防寒対策を行い、材料として使えるその日に向けてデビューしました。参加者は、朝早い集合と真冬の今にも雨が降りそうな天候の中での作業でしたが、全員笑顔で「早く大きくなーれ」と願いを込めて山を後にしました。

今後は、植栽した苗木の生長を観察すると共に、安定的確保と資源の育成を図るため来年度以降も移植を続ける予定です。

シラクチカズラの植栽の様子

シリーズ6 ようこそ高知中部森林管理署へ

当署は、高知市から車で国道一九五号線を北東に向かって一時間半ほどのところ、旧物部村の大栃に位置しています。

当署管内は、徳島県との県境に三嶺（一八九三m）、石立山（一七〇七m）、綱附森（つなつけもり）（一六四三m）等の主峰が連なり、一級河川物部川の水源をなしています。国有林はこれらの山系の中腹以上を占めており、森林植生は、ほとんどが温帯性のモミ、ツガ群系で占められていますが、一部徳島県境付近に亜寒帯のシラベ、ダケカンバ群系に属するところがあります。

白髪山から西熊山を望む

三嶺～西熊山稜線

三嶺避難小屋付近

人工林はスギ、ヒノキが植栽されており、年間三千ミリを超す降雨があることから、標高の低い林分は良好な成長を示しています。

また、希少な植物が生育するなど国有林の中で特に優れた自然環境を有する森林は保護林とし、適切な保護・管理に努めています。

四国森林管理局では、平成十五年三月に、保護林を連結してネットワークを形成し、広範で効果的な森林生態系を保護することを目的として、石鎚山地区と剣山地区において総延長一二八kmに及ぶ「四国山地緑の回廊」を指定しており、当署管内も三嶺を中心に剣山地区として約四〇〇〇haが設定されています。

このような管内の国有林は、地形が急峻でV字渓谷が多く、その眺望と相まって三嶺のコメツツジ群落、西熊山のケヤキ・ブナの紅葉、雄大な石立山、母性的な優しい山容の矢筈山、整った姿の白髪山などに四季を通じて多くの登山愛好者が訪れます。

さらに、三嶺のふもとの通称「さおりが原」には、「森の巨人たち百選」に選ばれた推定樹齢二五〇年以上のトチノキとイヌザクラの巨木があります。これらの巨木も皆さんをお待ちしていますので、ぜひ訪ねてみませんか。

トチノキ

イヌザクラ